

かどしま医療過疎

●再生先進地からの報告

昨年10月下旬の午後7時すぎ、千葉県九十九里町のホテル。近くの県立東金病院(東金市)や診療所の医師、薬剤師、看護師ら約50人が集まった。

同病院が中心となり、2001年9月から年4回開く糖尿病研究会。この日の講師は、地域医療

③ 縛られず、一人一人の患者と向き合う気持ちが大切」と訴えた。

1998年春。千葉大学病院から東金病院に赴任したばかりの平井愛山院長(60)は、足を切断しなければならぬような血糖値が異常に高い糖尿病患者が多いのに驚いた。

同病院がある医療圏内の切断数は20万人当たり年6・8肢で、全国平均1・2肢の5倍超。医

連携に力を入れる小倉記

念病院(北九州市)の横井宏佳・診療部長。糖尿

病とかかわりが深い循環器の専門医だ。

糖尿病の治療法を示したガイドラインにふれながら「臨床現場ではガイドライン通りでは(命は)

助けられない。患者の命は一つ。ガイドラインに

縛られず、一人一人の患者と向き合う気持ちが大

面から点

療圏内の糖尿病患者は1万人超で、うち1200人はインスリン治療が必要な重症者と推定された。

一方、圏内の糖尿病専門医は、平井院長を含め3人。高度技術と知識が必要なインスリン治療は、中核病院を除けば、1カ所の診療所で行われているだけだった。

平井院長は、少ない医師を効率よく活用するため、「病院完結型」から「地域完結型」への転換を思い立つ。重症者は専門医がいる病院で診て、軽症者は専門医ではない医師が開業する診療所で体調を管理。半年〜1年に1回、病院の専門医が診察

技術共有、地域で診療

する方式だ。

課題は、糖尿病の診療

技術の普及だった。東金

を務める古垣(ふるかき)内科医

の10年間、ほとんど増え

「血糖をコントロールするインスリン量の調整など、独学で知識を得るのは難しい」と話す。

専門医ではない開業医に一定程度の知識、技術を身につけてもらおうと

始めたのが、研究会や勉強会だった。

同病院から車で30分ほど離れた松尾クリニック(山武市)の金子昇院長

(55)は積極的に参加する一人。専門は呼吸器内科。

「開業前は千葉大病院にいたが、糖尿病はノータッチ」。研究会に参加するまでは血液検査で分かる糖尿病指標を見ながら

だ。

投薬で対応したり、専門医を紹介したりしていた。今は、インスリン治療をこなす。

東金病院を含む医療圏

の10年間、ほとんど増え

「血糖をコントロールす

るインスリン量の調整な

病を地域で診るために始

めた勉強会や研究会が実

り、インスリン療法がで

きる診療所は36カ所まで

増えた。

同病院では、糖尿病に

限らず、内科全般につい

ての開業医を招いた症例



糖尿病治療などの治療技術を学ぶ医師や薬剤師ら
—2009年10月下旬、千葉県九十九里町